

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

|                                |           |
|--------------------------------|-----------|
| I. 理念に基づく運営                    | 10        |
| 1. 理念の共有                       | 1         |
| 2. 地域との支えあい                    | 1         |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用          | 4         |
| 4. 理念を実践するための体制                | 3         |
| 5. 人材の育成と支援                    | 1         |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援          | 1         |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応      | 0         |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援      | 1         |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント  | 5         |
| 1. 一人ひとりの把握                    | 1         |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 1         |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援              | 0         |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働    | 3         |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援      | 7         |
| 1. その人らしい暮らしの支援                | 5         |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり        | 2         |
| <b>合計</b>                      | <b>23</b> |

|       |                    |
|-------|--------------------|
| 事業所番号 | 1492100043         |
| 法人名   | 株式会社 白寿会           |
| 事業所名  | グループホーム ふあいと山崎の里   |
| 訪問調査日 | 令和7年2月17日          |
| 評価確定日 | 令和7年4月1日           |
| 評価機関名 | 株式会社 R-CORPORATION |

**○項目番号について**  
 外部評価は23項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [次ステップに向けて期待したい内容]  
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和6年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|               |  |                |           |
|---------------|--|----------------|-----------|
| 事業所番号         | 1492100043                                       | 事業の開始年月日       | 平成19年8月1日 |
|               |  | 指定年月日          | 令和1年8月1日  |
| 法人名           | 株式会社 白寿会   |                |           |
| 事業所名          | グループホーム ふあいと山崎の里                                 |                |           |
| 所在地           | ( 247-0066 )<br>神奈川県鎌倉市山崎560                     |                |           |
| サービス種別<br>定員等 | <input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護             | 登録定員           | 名         |
|               | <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護 | 通い定員           | 名         |
|               |  | 宿泊定員           | 名         |
|               |  | 定員計            | 18名       |
|               |  | ユニット数          | 2 ユニット    |
| 自己評価作成日       | 令和7年2月7日   | 評価結果<br>市町村受理日 | 令和7年4月2日  |

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

|          |  |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 |  |
|----------|--|

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居様が楽しく笑顔で過ごせるように職員も一緒になりレクリエーションや日常の運動や散歩を積極的に行い、その様子を写真などに残し面会が難しいご家族様へも定期的にご様子を含めた内容のお手紙を出すことで、ご家族様が安心していただけるような事業所運営を行っています。  
職員も常に明るく元気よく笑顔で対応するように務めております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                                 |               |          |
|-------|---------------------------------|---------------|----------|
| 評価機関名 | 株式会社 R-CORPORATION              |               |          |
| 所在地   | 〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F |               |          |
| 訪問調査日 | 令和7年2月17日                       | 評価機関<br>評価決定日 | 令和7年4月1日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、株式会社白寿会の経営です。この法人は医療法人社団平平會と共に、介護と医療法人の連携を目指してグループ法人の「株式会社白寿会・医療法人社団平平會」です。法人では医療で2ヶ所のクリニックと介護では11か所のグループホーム、3ヶ所の小規模多機能型居宅介護事業所、1ヶ所の居宅介護支援事業所を展開しており、介護と医療が連携することにより、認知症や重度化が進行しており、最期まで住み慣れた地域の中で継続して暮らせるよう、介護と医療の両面から利用者を支えるサービスを提供しています。ここ「グループホームふあいと山崎の里」は、JR大船駅から湘南モノレールで一つ目の「富士見町」駅から徒歩約7分程の静かな住宅地にあります。  
●事業所では「①いつの日も笑顔生まれる安心の暮らし②守られて個性の輝きいつまでも③結び合おう、地域・家族の優しさ」の3つの理念を掲げています。新たに就任した管理者は、入居者が楽しく笑顔で過ごせ、職員も常に楽しく笑顔を絶やさないケアの実践をすべく、業務体制の見直しを行い、職場環境の整備に注力しました。また、職員の経験年数問わず互いに意見や提案を発言し合いながら、今後の体制作りをしていきたいと考えています。 ●研修の参加方法は、ZOOMが主体となっているが、身体拘束・虐待防止・感染症対応についての研修を受講し、ユニット会議等で振り返りを行っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

| 評価項目の領域                      | 自己評価項目  | 外部評価項目  |
|------------------------------|---------|---------|
| I 理念に基づく運営                   | 1 ~ 14  | 1 ~ 10  |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援         | 15 ~ 22 | 11      |
| III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 23 ~ 35 | 12 ~ 16 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援     | 36 ~ 55 | 17 ~ 23 |
| V アウトカム項目                    | 56 ~ 68 |         |

|       |                  |
|-------|------------------|
| 事業所名  | グループホーム ふあいと山崎の里 |
| ユニット名 | だいち              |

| V アウトカム項目 |   |   |                |
|-----------|---|---|----------------|
| 56        | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。<br>(参考項目：23, 24, 25)   | ○ | 1, ほぼ全ての利用者の   |
|           |   |   | 2, 利用者の2/3くらいの |
|           |   |   | 3. 利用者の1/3くらいの |
|           |   |   | 4. ほとんど掴んでいない  |
| 57        | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。<br>(参考項目：18, 38)           | ○ | 1, 毎日ある        |
|           |   |   | 2, 数日に1回程度ある   |
|           |   |   | 3. たまにある       |
|           |   |   | 4. ほとんどない      |
| 58        | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。<br>(参考項目：38)                 | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が   |
|           |   |   | 2, 利用者の2/3くらいが |
|           |   |   | 3. 利用者の1/3くらいが |
|           |   |   | 4. ほとんどいない     |
| 59        | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。<br>(参考項目：36, 37) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が   |
|           |   |   | 2, 利用者の2/3くらいが |
|           |   |   | 3. 利用者の1/3くらいが |
|           |   |   | 4. ほとんどいない     |
| 60        | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。<br>(参考項目：49)                | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が   |
|           |   |   | 2, 利用者の2/3くらいが |
|           |   |   | 3. 利用者の1/3くらいが |
|           |   |   | 4. ほとんどいない     |
| 61        | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。<br>(参考項目：30, 31)      | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が   |
|           |   |   | 2, 利用者の2/3くらいが |
|           |   |   | 3. 利用者の1/3くらいが |
|           |   |   | 4. ほとんどいない     |
| 62        | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。<br>(参考項目：28) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が   |
|           |   |   | 2, 利用者の2/3くらいが |
|           |   |   | 3. 利用者の1/3くらいが |
|           |   |   | 4. ほとんどいない     |

|    |  |   |                |
|----|--|---|----------------|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。<br>(参考項目：9, 10, 19)  | ○ | 1, ほぼ全ての家族と    |
|    |  |   | 2, 家族の2/3くらいと  |
|    |  |   | 3. 家族の1/3くらいと  |
|    |  |   | 4. ほとんどできていない  |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。<br>(参考項目：9, 10, 19)                  | ○ | 1, ほぼ毎日のように    |
|    |  |   | 2, 数日に1回程度ある   |
|    |  |   | 3. たまに         |
|    |  |   | 4. ほとんどない      |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。<br>(参考項目：4) | ○ | 1, 大いに増えている    |
|    |  |   | 2, 少しずつ増えている   |
|    |  |   | 3. あまり増えていない   |
|    |  |   | 4. 全くいない       |
| 66 | 職員は、活き活きと働いている。<br>(参考項目：11, 12)                                       | ○ | 1, ほぼ全ての職員が    |
|    |  |   | 2, 職員の2/3くらいが  |
|    |  |   | 3. 職員の1/3くらいが  |
|    |  |   | 4. ほとんどいない     |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。   | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が   |
|    |  |   | 2, 利用者の2/3くらいが |
|    |  |   | 3. 利用者の1/3くらいが |
|    |  |   | 4. ほとんどいない     |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。                                     | ○ | 1, ほぼ全ての家族等が   |
|    |  |   | 2, 家族等の2/3くらいが |
|    |  |   | 3. 家族等の1/3くらいが |
|    |  |   | 4. ほとんどいない     |

| 自己評価       | 外部評価 | 項目   | 自己評価   |   | 外部評価              |  |
|------------|------|--|--|---|-------------------|--|
|            |      |  | 実施状況   | 実施状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |  |
| I 理念に基づく運営 |      |  |  |   |                   |  |
| 3D95       | 1    | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                     | 理念をかかげ、無理なく毎日の生活に取り込む。                                   | 事業所では「①いつの日も笑顔生まれる安心の暮らし②守られて個性の輝きいつまでも③結び合おう、地域・家族のやさしさ」とした3つの項目からなる理念を作成し、事務所に掲示しています。笑顔を絶やさず入居者の自分らしく生活を送れるよう理念に則したケアに努めています。                                | 今後の継続             |  |
|            | 2    | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                     | 運営推進会議参加者より花火大会や町内イベントに協力や参加など今後も継続していき、近隣住民との付き合いを実施。   | 町内会に加入しており、地域の行事開催の案内が届いた際には、利用者の状態も考慮しながら参加しています。事業所の行事の花火大会には、町内会長が近隣に声掛けして頂き、沢山の参加があり毎年楽しみにして頂いています。   | 今後の継続             |  |
|            | 3    | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                   | グループホームとして、認知症の方でも一般の暮らしができていく状況を運営推進会議を通じて紹介している。       |   |                   |  |
|            | 4    | ○運営推進会議を活かした取組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 推進会議のなかで町内会や民生委員からの外部情報を参考にしている。また、ご家族様視点からの意見も今後に生かしたい。 | 運営推進会議は2ヶ月ごとの偶数月に開催しています。事業所の現状や活動状況、ヒヤリハット、入退院などの報告に対する質問や助言を求め、サービスの向上に活かしています。おやつ時の入居者の様子を見て頂き、直接会話もあるので、入居者の声も聞かれて嬉しかったとの声も聞きました。                           | 今後の継続             |  |
|            | 5    | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる           | 推進会議に、市役所担当も参加することで、事業所の取り組みや状況を報告している。                  | 市からの研修や講習会の案内が届いた際には職員に周知しています。2ヶ月に一度介護相談員の受け入れをしており、前もって入居者の状況を伝え、当日は全員に話しかけてくれます。傾聴後の報告は、唯一外部の方の貴重な意見として捉え職員と共有しています。生活保護受給者の受け入れを行っており、市の担当者とは密に連絡を取り合っています。 | 今後の継続             |  |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|------|------|---|--|--|-------------------|
|      |      |   | 実施状況   | 実施状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6    | 5    | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 3か月に一度の身体拘束会議を実施することで身体拘束の理解する。  | 3ヶ月に1回身体拘束適正委員会を開催し、事例を用いた話し合いや、意見交換を行うことで、身体拘束の必要性のある利用者の有無、グレーゾーンについても確認しています。身体拘束委員会で話し合った内容は、全職員で内容周知を行っています。  | 今後の継続             |
| 7    | 6    | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている                                      | 虐待防止に向けてのホーム内研修を実施している。まずは、認知症を理解し、職員の心身状況も踏まえ、定期的を実施。                 | 年2回高齢者虐待防止研修を行い、具体的な言葉かけや定義について学び、理解を深めています。特にスピーチロックは、場面場面で使い分け第三者からスピーチロックと捉えてしまわない様、自分のことを踏まえて言葉かけをするようにしています。  | 今後の継続             |
| 8    |      | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している                                 | 文書のみ配布で、資料としてだれでも閲覧できる状況にしている。   |  |                   |
| 9    |      | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている  | 契約時に、書面だけでなく、理解できるように説明している。   |  |                   |
| 10   | 7    | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている   | ご家族様の要望は、電話等で頂き、ホーム内での解決できない部分は、本部と話し合い、ご家族様に必ず返答している。外部への相談窓口も提示している。 | 入居時には、重要事項説明書に明記している苦情相談窓口について説明しています。基本的には、家族の来訪時や電話連絡した際に近況報告と合わせて意見や要望を伺っています。家族から聴取した意見や要望は、全職員で共有しながら迅速な対応を心がけています。また、事業所から毎月郵送している「お便り」は、近況報告は居室担当者が、体調面は管理者又はリーダーが書き、本人の写真付きで送付しています。 | 今後の継続             |

| 自己評価                 | 外部評価 | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----------------------|------|--|---|---|-------------------|
|                      |      |  | 実施状況  | 実施状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11                   | 8    | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 個別に意見を聞き入れているが、なかなか本音までは、届かない場合もある。また、法人として、意見書記入用紙も作成してある。       | 業務や休憩時間の合間に日常的にコミュニケーションを取り、意見や提案を聞くよう心がけています。又、必要に応じて職員との面談の機会を設け、意欲向上につなげています。2ヶ月に1回のZOOMでの法人本部の役員も参加の管理者会議に参加し、結果を職員にも伝えています。                            | 今後の継続             |
| 12                   | 9    | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 年に、3度、自己評価を本部に提出している。現状、職員不足であり職員へのモチベーションの向上の一つとして賃金アップも取り入れている。 | 法人の自己評価に基づき、年3回管理者が個人評価を実施しています。職員の仕事に対する意欲向上に向けて、賃金アップを図るなど定着率向上に向けた取り組みを行い、職場環境的体制の整備に努めています。職員の勤怠については、管理者が希望休や有給休暇の取得出来るよう、シフト調整を行い、ライフワークバランスに配慮しています。 | 今後の継続             |
| 13                   | 10   | ○職員を育てる取組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている          | 外部研修は、Webでの参加もあるが、ホーム内研修として、ユニット会議時に一緒に行っている。                     | 職員の育成は、法人として年間の外部研修、合同勉強会、Webでの研修スケジュールを立て、職員の資質向上に努めています。管理者は職員の経験年数や、職員の力量に応じて、資格の取得や外部研修の受講を促し、職員の資質向上に努めています。   | 今後の継続             |
| 14                   |      | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 交流には、限度があるが、近隣のホームと交流している。ほぼ、Web会議での交流が主になっている。                   |   |                   |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 |      |  |   |   |                   |
| 15                   |      | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている        | 入居前に、本人・ご家族様・介護支援の方の聞き込みで最初のプランを立てている。                            |   |                   |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|------|------|--|--|---|-------------------|
|      |      |  | 実施状況   | 実施状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16   |      | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている     | 入居前の聞き取りをもとに、入居時にケアプランを提示し、ケアの方向性を理解してもらう。ご家族様の希望も取り入れている。 |   |                   |
| 17   |      | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ケアプランをもとに、サービス内容を理解していただく。グループホーム内での支援も説明する。               |   |                   |
| 18   |      | ○本人と共に過ごし支え合う関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                    | 個別対応として、本人を理解した上で、出来ない部分のお手伝いとして、身体的・声掛けを大切にしている。          |   |                   |
| 19   |      | ○本人と共に支え合う家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている     | 面会時などに会話の場を提供している。家族からも本人の普段と違う要望も聞き入れる体制で、情報を共有している。      |   |                   |
| 20   | 11   | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                 | 手紙や電話は、本人渡しで、こちらからも手紙等のやり取りを可能としている。                       | 入居前面談時にその方の取り巻く人間関係などの把握に努め、これまでの馴染みの関係が途切れないよう、面会のみならず、電話の取り次ぎや手紙や年賀状のやり取りも継続できるよう支援しています。毎月1から2回、娘さんから音の出るメッセージカードが届く入居者もいます。 | 今後の継続             |

| 自己評価                       | 外部評価 | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----------------------------|------|--|--|--|-------------------|
|                            |      |  | 実施状況   | 実施状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21                         |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | 同じ空間で、テレビを見たり、レクリエーションなど行ったり、全員での食事をする事で安心を持ってもらう。 |  |                   |
| 22                         |      | ○関係を断ち切らない取り組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去されても、ご家族様の相談等は、出来る限りの範囲で継続している。                  |  |                   |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント |      |  |  |  |                   |
| 23                         | 12   | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。                        | 個々の行動に、制限はしていません。ただ、行動に危険が乗じる場合は、声掛けで誘導している。       | 入居時に作成したアセスメントシートを基に利用者に関わって生きながら、本人の言葉・顔の表情・仕草など、些細な言葉や様子の変化を連絡ノートや個人記録に記入しています。得られた情報は職員間で情報共有を図りながら思いや意向の把握に努めています。 | 今後の継続             |
| 24                         |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                     | 生活歴を職員全員で、入居前から把握することで、介護の方向性が統一される。               |  |                   |
| 25                         |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている                                   | 日々変化することから、小さな行動も記録に残し、全員で共有する。                    |  |                   |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|------|------|--|--|--|-------------------|
|      |      |  | 実施状況   | 実施状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26   | 13   | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | モニタリングは、毎月のユニット会議に取り入れている。日々変化することで、安心したケアを提供できる。                        | 入居時はアセスメントで得られた情報を基に初回の介護計画を作成し、暫定一ヶ月様子を見ながらADL等の情報に差異が無いかを確認しています。毎日の個人記録や職員からの聞き取りを基に、毎月のユニット会議でモニタリングを実施し介護計画の見直しをしています。  | 今後の継続             |
| 27   |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 記録に残すことで、介護の見直しに生かしている。  |  |                   |
| 28   |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 日々の変化に柔軟に検討とし、自己判断での介護につながらないように努めている。                                   |  |                   |
| 29   |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                         | 心身状態に応じて、外部からのマツサージ等も利用したり、外部のかまくら散歩等の行事も参考したりしている。                      |  |                   |
| 30   | 14   | ○かかりつけ医の受診診断<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                    | 往診医と相談で、必要に応じてご家族様の了承のもと外部受診をしている。身体状況に応じて、定期受診の必要な方は、ご家族様、職員と協力で実施している。 | 入居前に事業所の協力医療機関について説明し、本人と家族の希望を尊重して主治医を決めて頂いています。事業所の協力医に切り替えた方には、月2回の訪問診療を受けていますが、従来のかかりつけ医での受診を継続される方は、家族対応で通院しています。また、看護師は週一回健康管理に来ており、必要な方は、口腔ケアや治療等の歯科の往診を受けています。 | 今後の継続             |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|------|------|--|--|---|-------------------|
|      |      |  | 実施状況   | 実施状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31   |      | ○看護職員との協働<br>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                      | 週一回の看護師の訪問で、変化などあった場合は医師への報告とともに処置している。また、必要に応じて、医師の支持のもと訪問看護も取り入れている。 |   |                   |
| 32   |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院相談員の連絡をとりながら退院に向けての情報共有に努めている。                                       |   |                   |
| 33   | 15   | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期は、医師と家族を交え話し合いの場を設けている。終末期に関しては、医療と介護をで、ご家族様に安心して頂けるように支援している。  | 入居時に「重度化した場合における対応に関する指針」を説明し、重度化に関する同意書を取り交わしています。重度化した場合は、医師と家族、管理者と話し合い、今後の方針を決めています。本人・家族の希望で、医療行為を必要としない条件が整えば、看取りを行うとしています。看取りの指針やマニュアルが整備され、看取り対応時には研修を行っています。 | 今後の継続             |
| 34   |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている   | 急変時は、医療機関とオンコール体制を充実させている。職員も安心して行動できるように資料を作成している。                    |   |                   |
| 35   | 16   | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている   | 避難訓練は、年2回実施。災害にも備え、緊急避難先への誘導訓練もしている。                                   | 年2回の避難訓練では、水害や地震を想定して行っています。合わせて緊急時にスムーズな対応が出来るよう、通報訓練を全職員で実施しています。今後は、地域との防災訓練に参加し協力体制作りをしていきたいと考えています。備蓄は、水、食料、ヘルメット、懐中電灯、ガスコンロ、衛生用品等を準備しています。                      | 今後の継続             |

| 自己評価                     | 外部評価 | 項目   | 自己評価   |  | 外部評価              |   |
|--------------------------|------|--|--|--|-------------------|---|
|                          |      |  | 実施状況   | 実施状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |   |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 |      |  |  |  |                   |   |
| 36                       | 17   | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                | 自己満足にならないよう、声掛けや介護を統一している。接遇も会議で行っている。                               | 入職時研修や入職後も定期的な研修を実施し、申し送り時やケア会議等で、接遇、マナー、倫理について話し合う機会を設けています。利用者一人ひとりの人格や個性を尊重し、尊厳や自尊心を傷つけることのないよう、言動や対応に十分留意しています。  | 今後の継続             |   |
| 37                       |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 職員本位にならないように、まずは傾聴する。会話の中で、思いも見出し、本人の希望も否定しないようにしている。                | /  |                   | / |
| 38                       |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本は、本人の行動を優先しているが、声掛け誘導で、安心した時間も考慮している。                              |  |                   |   |
| 39                       |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 出来る方・こちらで提供する方、どちらも安心できるように支援している。                                   |  |                   |   |
| 40                       | 18   | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている     | 個々に食事形態を工夫することで、食事を楽しんで頂いている。盛り付け等の限られてしまうが、家事手伝いの楽しみとして職員と一緒にやっている。 | レシピ付きの食材を業者から購入し、調理をしています。食前には口腔体操を行って誤嚥防止に努めています。本人の負担にならない程度に配膳や食器拭きなど手伝って頂き、残存能力の維持に繋げています。また、食事を完食出来るよう、一人ひとりの誤嚥能力に応じた食事形態で提供しています。正月・節分・雛祭りなどには行事食を提供して、食を楽しんでいただけるよう支援しています。 | 今後の継続             |   |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|------|------|---|---|--|-------------------|
|      |      |   | 実施状況  | 実施状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41   |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                 | 食事形態は、個々に提供。水分も飲む時間を工夫したりしている。状態に応じては、食事介助を実施している。              |  |                   |
| 42   |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                         | 食後は、個々に口腔ケアの声掛け誘導を行っている。一人では難しい方は、介助している。また、歯科往診時に口腔ケアも取り入れている。 |  |                   |
| 43   | 19   | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている          | 個別対応を実施。排泄のパターンは、排泄記録をもとに、声掛け誘導で失禁防止に努めている。                     | 利用者全員の排泄状況を排泄表に記録して、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、時間やタイミングを見計らった誘導にてトイレで排泄を行えるよう支援しています。便秘の方については、主治医や看護師と連携して下剤を処方していただいたり、乳製品を提供したりなどして対応しています。 | 今後の継続             |
| 44   |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                          | 運動は、毎日実施しているが、便秘時は、医療機関と相談で、個々に投薬で調整している。                       |  |                   |
| 45   | 20   | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 入浴は、週2日を実施している。入浴は、個別対応なので、身体状況も観察している。                         | 入浴は週2回を基本とし、曜日を決めて対応していますが、利用者の意向を尊重しながら柔軟に入浴支援を行っています。入浴後もバイタルチェックで本人の体調を確認しています。時期によっては、菖蒲湯やゆず湯など行い、季節感を感じながら入浴できるよう支援しています。         | 今後の継続             |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|------|------|--|--|--|-------------------|
|      |      |  | 実施状況   | 実施状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46   |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している  | 就寝時間も本人に合わせている。ただ、昼夜逆転にならないよう声掛け誘導もしている。居室は、本人の合わせ温度調節しながら安心した睡眠を提供。また、日中も体調に合わせて昼寝も実施している。                |  |                   |
| 47   |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている   | 本人の病歴を理解し、薬情報も処方内容は、職員全員共有している。投薬管理は、ホームで、確認・投薬介助者と二重の確認とし、飲み込みまでを介助とし、投薬後の記録も残している。変化時は、すぐに医療機関に報告し指示を得る。 |  |                   |
| 48   |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                              | 声掛けし、活かせる趣味は、危険のない範囲で行っている。気分転換も兼ねて、同じ場所に長時間いないように支援している。  |  |                   |
| 49   | 21   | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外出は、ご家族様付き添いとしている。特別な場合は、職員も同行する。一人での外出は行っていない。  | 天気の良い日には、近くのカブト虫公園まで散歩に出かけています。車椅子を使用される方は、玄関先や事業所周辺での外気浴を行っています。日々の関わりの中で散歩以外の希望を聞くなどして、買い物等の外出支援も行っています。 | 今後の継続             |
| 50   |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している                              | 基本、お金は居室には置かず、事務所で小遣いとして預かっている。ただ、安心できない方は、ご家族様了承で居室に置いている。  |  |                   |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|------|------|--|--|--|-------------------|
|      |      |  | 実施状況   | 実施状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51   |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 手紙や本人希望での電話は、可能な限りやり取り可能としている。                                     |  |                   |
| 52   | 22   | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 個々により、大トイレ・小トイレを使用。府生活の場は、季節がわかるように飾りつけで季節を感じて楽しんで頂く。              | リビングの壁面には、行事ごとの飾りつけや季節を感じる作品を利用者と職員で一緒に作り掲示しています。室温、湿度は職員が確認して調整し、加湿器も設置しています。今年度も夏祭り、花火大会、敬老会、クリスマス会などイベント作りの得意な職員のもとで、入居者と職員が楽しめる行事を開催しています、 | 今後の継続             |
| 53   |      | ○共用空間における一人ひとりの居場<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 常に、話の出来る場所を提供している。状況に応じては、席替えもしたりと配慮している。                          |  |                   |
| 54   | 23   | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | なるべく入居前の居室に合わせた空間とし、馴染みの家具や洋服を用意して頂き、普段の生活で安心してもらう。                | 各居室にはエアコン、防炎カーテン、クローゼット、洗面台などが整備されています。入居時には使い慣れた家具や備品をスペースに応じて持ち込んで頂き、利用者本人にとって居心地よく過ごせる居室作りをお願いしています。特に洋服類は、洗濯機で洗えるスエット素材のをお願いしています。         | 今後の継続             |
| 55   |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している  | 各居室に洗面台、クローゼットも備えてあるので、出来る範囲の残存機能を生かせるよう声掛けする。危険予防として、ベツトにも工夫している。 |  |                   |

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム ふあいと山崎の里

作成日

令和7年2月17日

〔目標達成計画〕

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目 標                             | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容                             | 目標達成に要する期間 |
|------|------|--------------|---------------------------------|--|------------|
| 1    | 13   | 職員の定着と育成     | 後輩職員を指導、育てる力を身に着けることと自身のスキルアップ。 | 他施設の状況を見る時間を作り自施設で足りないところや続けていけるところを理解する機会を作る。 | 1年         |
| 2    | 4    | 外部・法人研修不足    | 研修は、積極的に参加                      | まずは、法人研修として、ホーム内での研修を進める。                      | 1年         |
| 3    | 1    | 認知症への理解      | 認知症の種類と対応を理解                    | 認知症の理解と、個別対応を充実させる。                            | 1年         |
| 4    | 3    | 外部受診へのあり方    | 受診は、ご家族様との協力とともに実施したい。          | 医療機関に、相談と早めの対応を心がける。                           | 1年         |
|      |      |              |                                 |  |            |

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

|       |                  |
|-------|------------------|
| 事業所名  | グループホーム ふあいと山崎の里 |
| ユニット名 | あおぞら             |

| V アウトカム項目 |   |   |                |
|-----------|---|---|----------------|
| 56        | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。<br>(参考項目：23, 24, 25)   | ○ | 1, ほぼ全ての利用者の   |
|           |   |   | 2, 利用者の2/3くらいの |
|           |   |   | 3. 利用者の1/3くらいの |
|           |   |   | 4. ほとんど掴んでいない  |
| 57        | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。<br>(参考項目：18, 38)           | ○ | 1, 毎日ある        |
|           |   |   | 2, 数日に1回程度ある   |
|           |   |   | 3. たまにある       |
|           |   |   | 4. ほとんどない      |
| 58        | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。<br>(参考項目：38)                 | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が   |
|           |   |   | 2, 利用者の2/3くらいが |
|           |   |   | 3. 利用者の1/3くらいが |
|           |   |   | 4. ほとんどいない     |
| 59        | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。<br>(参考項目：36, 37) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が   |
|           |   |   | 2, 利用者の2/3くらいが |
|           |   |   | 3. 利用者の1/3くらいが |
|           |   |   | 4. ほとんどいない     |
| 60        | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。<br>(参考項目：49)                | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が   |
|           |   |   | 2, 利用者の2/3くらいが |
|           |   |   | 3. 利用者の1/3くらいが |
|           |   |   | 4. ほとんどいない     |
| 61        | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。<br>(参考項目：30, 31)      | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が   |
|           |   |   | 2, 利用者の2/3くらいが |
|           |   |   | 3. 利用者の1/3くらいが |
|           |   |   | 4. ほとんどいない     |
| 62        | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。<br>(参考項目：28) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が   |
|           |   |   | 2, 利用者の2/3くらいが |
|           |   |   | 3. 利用者の1/3くらいが |
|           |   |   | 4. ほとんどいない     |

|    |  |   |                |
|----|--|---|----------------|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。<br>(参考項目：9, 10, 19)  | ○ | 1, ほぼ全ての家族と    |
|    |  |   | 2, 家族の2/3くらいと  |
|    |  |   | 3. 家族の1/3くらいと  |
|    |  |   | 4. ほとんどできていない  |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。<br>(参考項目：9, 10, 19)                  | ○ | 1, ほぼ毎日のように    |
|    |  |   | 2, 数日に1回程度ある   |
|    |  |   | 3. たまに         |
|    |  |   | 4. ほとんどない      |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。<br>(参考項目：4) | ○ | 1, 大いに増えている    |
|    |  |   | 2, 少しずつ増えている   |
|    |  |   | 3. あまり増えていない   |
|    |  |   | 4. 全くいない       |
| 66 | 職員は、活き活きと働いている。<br>(参考項目：11, 12)                                       | ○ | 1, ほぼ全ての職員が    |
|    |  |   | 2, 職員の2/3くらいが  |
|    |  |   | 3. 職員の1/3くらいが  |
|    |  |   | 4. ほとんどいない     |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。   | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が   |
|    |  |   | 2, 利用者の2/3くらいが |
|    |  |   | 3. 利用者の1/3くらいが |
|    |  |   | 4. ほとんどいない     |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。                                     | ○ | 1, ほぼ全ての家族等が   |
|    |  |   | 2, 家族等の2/3くらいが |
|    |  |   | 3. 家族等の1/3くらいが |
|    |  |   | 4. ほとんどいない     |

| 自己評価       | 外部評価 | 項目   | 自己評価   | 外部評価 |                   |
|------------|------|--|--|------|-------------------|
|            |      |  | 実施状況   | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 |      |  |  |      |                   |
| 3D95       | 1    | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                     | 理念をかかげ、無理なく毎日の生活に取り込む。                                   |      |                   |
|            | 2    | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                     | 運営推進会議参加者より花火大会や町内イベントに協力や参加など今後も継続していき、近隣住民との付き合いを実施。   |      |                   |
|            | 3    | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                   | グループホームとして、認知症の方でも一般の暮らしができていく状況を運営推進会議を通じて紹介している。       |      |                   |
|            | 4    | ○運営推進会議を活かした取組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 推進会議のなかで町内会や民生委員からの外部情報を参考にしている。また、ご家族様視点からの意見も今後に生かしたい。 |      |                   |
|            | 5    | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる            | 推進会議に、市役所担当も参加することで、事業所の取り組みや状況を報告している。                  |      |                   |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目  | 自己評価   | 外部評価 |                   |
|------|------|---|--|------|-------------------|
|      |      |   | 実施状況   | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6    | 5    | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 3か月に一度の身体拘束会議を実施することで身体拘束の理解する。  |      |                   |
| 7    | 6    | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている                                      | 虐待防止に向けてのホーム内研修を実施している。まずは、認知症を理解し、職員の心身状況も踏まえ、定期的を実施。                 |      |                   |
| 8    |      | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している                                 | 文書のみ配布で、資料としてだれでも閲覧できる状況にしている。   |      |                   |
| 9    |      | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている  | 契約時に、書面だけでなく、理解できるように説明している。   |      |                   |
| 10   | 7    | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている   | ご家族様の要望は、電話等で頂き、ホーム内での解決できない部分は、本部と話し合い、ご家族様に必ず返答している。外部への相談窓口も提示している。 |      |                   |

| 自己評価                 | 外部評価 | 項目   | 自己評価  | 外部評価 |                   |
|----------------------|------|--|---|------|-------------------|
|                      |      |  | 実施状況  | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11                   | 8    | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 個別に意見を聞き入れているが、なかなか本音までは、届かない場合もある。また、法人として、意見書記入用紙も作成してある。       |      |                   |
| 12                   | 9    | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 年に、3度、自己評価を本部に提出している。現状、職員不足であり職員へのモチベーションの向上の一つとして賃金アップも取り入れている。 |      |                   |
| 13                   | 10   | ○職員を育てる取組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている          | 外部研修は、Webでの参加もあるが、ホーム内研修として、ユニット会議時に一緒に行っている。                     |      |                   |
| 14                   |      | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 交流には、限度があるが、近隣のホームと交流している。ほぼ、Web会議での交流が主になっている。                   |      |                   |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 |      |  |   |      |                   |
| 15                   |      | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている        | 入居前に、本人・ご家族様・介護支援の方の聞き込みで最初のプランを立てている。                            |      |                   |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 自己評価   | 外部評価 |                   |
|------|------|--|--|------|-------------------|
|      |      |  | 実施状況   | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16   |      | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている     | 入居前の聞き取りをもとに、入居時にケアプランを提示し、ケアの方向性を理解してもらう。ご家族様の希望も取り入れている。 |      |                   |
| 17   |      | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ケアプランをもとに、サービス内容を理解していただく。グループホーム内での支援も説明する。               |      |                   |
| 18   |      | ○本人と共に過ごし支え合う関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                    | 個別対応として、本人を理解した上で、出来ない部分のお手伝いとして、身体的・声掛けを大切にしている。          |      |                   |
| 19   |      | ○本人と共に支え合う家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている     | 面会時などに会話の場を提供している。家族からも本人の普段と違う要望も聞き入れる体制で、情報を共有している。      |      |                   |
| 20   | 11   | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                 | 手紙や電話は、本人渡りで、こちらからも手紙等のやり取りを可能としている。                       |      |                   |

| 自己評価                         | 外部評価 | 項目   | 自己評価   | 外部評価 |                   |
|------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
|                              |      |  | 実施状況   | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21                           |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | 同じ空間で、テレビを見たり、レクリエーションなど行ったり、全員での食事をする事で安心を持ってもらう。 |      |                   |
| 22                           |      | ○関係を断ち切らない取り組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去されても、ご家族様の相談等は、出来る限りの範囲で継続している。                  |      |                   |
| III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント |      |  |  |      |                   |
| 23                           | 12   | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。                        | 個々の行動に、制限はしていません。ただ、行動に危険が乗じる場合は、声掛けで誘導している。       |      |                   |
| 24                           |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                     | 生活歴を職員全員で、入居前から把握することで、介護の方向性が統一される。               |      |                   |
| 25                           |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている                                   | 日々変化することから、小さな行動も記録に残し、全員で共有する。                    |      |                   |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 自己評価   | 外部評価 |                   |
|------|------|--|--|------|-------------------|
|      |      |  | 実施状況   | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26   | 13   | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | モニタリングは、毎月のユニット会議に取り入れられている。日々変化することで、安心したケアを提供できる。                      |      |                   |
| 27   |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 記録に残すことで、介護の見直しに生かしている。  |      |                   |
| 28   |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 日々の変化に柔軟に検討とし、自己判断での介護につながらないように努めている。                                   |      |                   |
| 29   |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                         | 心身状態に応じて、外部からのマツサージ等も利用したり、外部のかまくら散歩等の行事も参考したりしている。                      |      |                   |
| 30   | 14   | ○かかりつけ医の受診診断<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                    | 往診医と相談で、必要に応じてご家族様の了承のもと外部受診をしている。身体状況に応じて、定期受診の必要な方は、ご家族様、職員と協力で実施している。 |      |                   |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 自己評価   | 外部評価 |                   |
|------|------|--|--|------|-------------------|
|      |      |  | 実施状況   | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31   |      | ○看護職員との協働<br>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                      | 週一回の看護師の訪問で、変化などあった場合は医師への報告とともに処置している。また、必要に応じて、医師の支持のもと訪問看護も取り入れている。 |      |                   |
| 32   |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院相談員の連絡をとりながら退院に向けての情報共有に努めている。                                       |      |                   |
| 33   | 15   | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期は、医師と家族を交え話し合いの場を設けている。終末期に関しては、医療と介護をで、ご家族様に安心して頂けるように支援している。  |      |                   |
| 34   |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている   | 急変時は、医療機関とオンコール体制を充実させている。職員も安心して行動できるように資料を作成している。                    |      |                   |
| 35   | 16   | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている   | 避難訓練は、年2回実施。災害にも備え、緊急避難先への誘導訓練もしている。                                   |      |                   |

| 自己評価                     | 外部評価 | 項目   | 自己評価  | 外部評価 |                   |
|--------------------------|------|--|---|------|-------------------|
|                          |      |  | 実施状況  | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 |      |  |   |      |                   |
| 36                       | 17   | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                | 自己満足にならないよう、声掛けや介護を統一している。接遇も会議で行っている。                              |      |                   |
| 37                       |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 職員本位にならないように、まずは傾聴する。会話の中で、思いも見出し、本人の希望も否定しないようにしている。               |      |                   |
| 38                       |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本は、本人の行動を優先しているが、声掛け誘導で、安心した時間も考慮している。                             |      |                   |
| 39                       |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 出来る方・こちらで提供する方、どちらも安心できるように支援している。                                  |      |                   |
| 40                       | 18   | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている     | 個々に食事形態を工夫することで、食事を楽しんで頂いている。盛り付け等の限られてしまうが、家事手伝いの楽しみとして職員と一緒にしている。 |      |                   |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目  | 自己評価  | 外部評価 |                   |
|------|------|---|---|------|-------------------|
|      |      |   | 実施状況  | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41   |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                 | 食事形態は、個々に提供。水分も飲む時間を工夫したりしている。状態に応じては、食事介助を実施している。              |      |                   |
| 42   |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                         | 食後は、個々に口腔ケアの声掛け誘導を行っている。一人では難しい方は、介助している。また、歯科往診時に口腔ケアも取り入れている。 |      |                   |
| 43   | 19   | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている          | 個別対応を実施。排泄のパターンは、排泄記録をもとに、声掛け誘導で失禁防止に努めている。                     |      |                   |
| 44   |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                          | 運動は、毎日実施しているが、便秘時は、医療機関と相談で、個々に投薬で調整している。                       |      |                   |
| 45   | 20   | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 入浴は、週2日を実施している。入浴は、個別対応なので、身体状況も観察している。                         |      |                   |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 自己評価   | 外部評価 |                   |
|------|------|--|--|------|-------------------|
|      |      |  | 実施状況   | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46   |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している  | 就寝時間も本人に合わせている。ただ、昼夜逆転にならないよう声掛け誘導もしている。居室は、本人の合わせ温度調節しながら安心した睡眠を提供。また、日中も体調に合わせて昼寝も実施している。                |      |                   |
| 47   |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている   | 本人の病歴を理解し、薬情報も処方内容は、職員全員共有している。投薬管理は、ホームで、確認・投薬介助者と二重の確認とし、飲み込みまでを介助とし、投薬後の記録も残している。変化時は、すぐに医療機関に報告し指示を得る。 |      |                   |
| 48   |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                              | 声掛けし、活かせる趣味は、危険のない範囲で行っている。気分転換も兼ねて、同じ場所に長時間いないように支援している。  |      |                   |
| 49   | 21   | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外出は、ご家族様付き添いとしている。特別な場合は、職員も同行する。一人での外出は行っていない。  |      |                   |
| 50   |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している                              | 基本、お金は居室には置かず、事務所で小遣いとして預かっている。ただ、安心できない方は、ご家族様了承で居室に置いている。  |      |                   |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 自己評価   | 外部評価 |                   |
|------|------|--|--|------|-------------------|
|      |      |  | 実施状況   | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51   |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 手紙や本人希望での電話は、可能な限りやり取り可能としている。                                     |      |                   |
| 52   | 22   | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 個々により、大トイレ・小トイレを使用。府生活の場は、季節がわかるように飾りつけで季節を感じて楽しんで頂く。              |      |                   |
| 53   |      | ○共用空間における一人ひとりの居場<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 常に、話の出来る場所を提供している。状況に応じては、席替えもしたりと配慮している。                          |      |                   |
| 54   | 23   | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | なるべく入居前の居室に合わせた空間とし、馴染みの家具や洋服を用意して頂き、普段の生活で安心してもらう。                |      |                   |
| 55   |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している  | 各居室に洗面台、クローゼットも備えてあるので、出来る範囲の残存機能を生かせるよう声掛けする。危険予防として、ベツトにも工夫している。 |      |                   |

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム ふあいと山崎の里

作成日

令和7年2月17日

〔目標達成計画〕

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目 標                             | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容                             | 目標達成に要する期間 |
|------|------|--------------|---------------------------------|--|------------|
| 1    | 13   | 職員の定着と育成     | 後輩職員を指導、育てる力を身に着けることと自身のスキルアップ。 | 他施設の状況を見る時間を作り自施設で足りないところや続けていけるところを理解する機会を作る。 | 1年         |
| 2    | 4    | 外部・法人研修不足    | 研修は、積極的に参加                      | まずは、法人研修として、ホーム内での研修を進める。                      | 1年         |
| 3    | 1    | 認知症への理解      | 認知症の種類と対応を理解                    | 認知症の理解と、個別対応を充実させる。                            | 1年         |
| 4    | 3    | 外部受診へのあり方    | 受診は、ご家族様との協力とともに実施したい。          | 医療機関に、相談と早めの対応を心がける。                           | 1年         |
|      |      |              |                                 |  |            |

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。